

歴史あるなし産地の維持・発展に向けて

～八千代市梨業組合研究部の活動～

1 課題の背景とねらい

八千代市のなし栽培は 100 年以上の歴史があり、人口の多い立地を生かした高品質果実の直売を行っています。産地の組織である八千代市梨業組合には産地の主要な担い手が所属する研究部（部員 18 名）がありますが、近年は産地全体の高齢化や後継者不足による担い手不足が問題となっており、産地を維持していくには、省力化や労力確保が重要となっています。

そこで、歴史ある産地の維持・発展に向け、主要な担い手である研究部を対象に省力化や労力確保に向けた取組を支援しました。

2 普及活動の経過・結果

（１）先輩農家への視察

6 月 12 日と 7 月 22 日に省力化と改植に係る先輩農家への視察を行い、延べ 13 名が参加しました。ダンボール封函機、省力樹形である二本主枝一文字仕立て、ジョイント仕立て、計画的な列状の改植について 4 戸への視察を行い、各種取組のメリットや懸念点について理解を深めました（写真 1）。参加者からは「ダンボール封函機は設置場所が確保できれば導入したい」、省力樹形や改植については「今後の改植の参考になった」との意見が出されました。



写真 1 改植の優良事例の視察

また、視察先の改植時の土壌病害対策方法を参考に、自身のほ場でも対策を実施することを決めた参加者もいました。

（２）雇用導入研修会

八千代市では雇用を導入している経営体は少数ですが、今後の産地維持に向けて労力確保が重要となってきます。そこで、7 月 25 日に雇用導入に関する基礎知識の習得に向け、視察を含めた研修会を開催しました。8 名が参加し、農業における雇用の特徴や雇用契約の手続き等について学びました（写真 2）。



写真 2 社会保険労務士による講義

参加者からは「現状、雇用は必要

ないが、将来的には必要となってくる。その際の参考になった」との意見が出され、将来の労力不足への対応を検討するきっかけとなりました。

（３）省力機械実演会

作業の省力化に向けて様々なスマート農業機械の開発が進む中、八千代市のなし経営体ではロボット除草機への関心が高まっていました。そこで、12月10日にメーカー3社を招き、比較的価格が低い小型の機種2機と、草を刈るパワーが大きい大型の機種1機の実演会を開催しました。12名が参加し、各機械の特長について理解を深めました。参加者からは「実物を見ることで課題も感じた。今度は実際に導入しているなし農家を見に行きたい」、「省力化や獣害対策も兼ねて、将来的に事業を活用して導入したい」との意見が出されました。



写真3 除草機の実物を見学

（４）技術講習会の開催

なし栽培における重要管理作業である新梢管理とせん定について、講習会を開催しました。講習会では基本技術の確認と併せ、近年の気象状況に合わせた管理方法の検討や、作業の実践を行いました。作業時には先輩農家が後輩農家に技術を教える場面も見られ、技術研鑽が図られました。



写真4 新梢管理について意見・
技術交換

3 今後の課題

今年度は主に省力化や労力確保に向けた取組を行いました。今後も部員の資質向上と経営の維持・発展に向けて優良事例の視察や省力化機械の導入、雇用導入のための支援をしていきます。また、次年度以降は安定した生産に向け、技術面を中心に研究部の活動が主体的に展開されるよう支援していきます。そして、研究部活動を組合全体へ波及させ、産地全体の振興を図っていきます。

4 担当者 八千代グループ ◎中尾友、小塚玲子

5 協力機関 JA八千代市